

2008年クリーンハイクアピール

長い寒冷のつづいた冬をのりこえ、早い開花の春、新緑の季節がめぐり、クリーンハイクの時期となりました。

今年のクリーンハイクは、労山が全国いっせいはじめてから 35 年目となります。この一年間、労山自然保護憲章の学習や、自然保護活動の充実など各地で意欲的なとりくみがすすみました。さらに、国の内外で地球温暖化への関心が高まり、山岳自然への影響の調査・観察や学習、CO₂ 削減行動などの模索がはじまっています。こうした状況のなかでのクリーンハイクとなります。

昨年 5 月、廃棄物学会で最近 5 年間（02 年～06 年）のクリーンハイク活動をまとめ報告しました。その内容は、40 前後の都道府県で、420 会・クラブから約 8400 人が参加し、主として国立公園・国定公園内内の 230 山域・350 コースで実施。ゴミの状況・特徴は、可燃ゴミが約 3300 k g、不燃ゴミは約 10000 k g を回収。登山道入り口から上部の登山道のゴミはほとんどなく、きれいになってきたが、登山道入り口から山麓にかけて車の入る林道や沢に不法投棄された廃棄物はむしろ増えている—というものです。

この活動の規模・内容は、私たちのとりくみの到達点であり、活動の力量を示すものとして評価されました。山全体としてみれば、「ゴミは減っていない」ことが明らかになっており、クリーンハイク活動は、山の現状を社会に発信しつづけるために意義のある活動です。

以上の到達点から、今年のクリーンハイクでは次の諸問題をふまえながらとりくみましょう。

- 1、ゴミはゴミを呼びます。きれいになった山域でも清掃をつづけましょう。
- 2、清掃とともに、自然の状況や変化を観察し、登山道の点検や整備にとりくむ会・クラブも増えてきました。とくに観察活動は、地球温暖化の進行と生態系への影響の広がりからみて大事な活動となります。なにができるか話し合う機会にしましょう。
- 3、不法投棄の廃棄物対策については、各地方連名の判断に委ねていますが、廃棄地点とその不法投棄の状況について、写真などの映像などでも記録し、当該自治体に報告し、対策を求めつづけていくことも必要です。
- 4、地球温暖化のこれ以上の進行をくいとめるために、CO₂ 削減行動にとりくむ団体・企業・個人が増えています。基本は大企業・主要産業の削減行動が必要ですが、労山として、登山・ハイキング行動のなかで、CO₂ 削減にどのようにとりくんでいくのかについて検討していくことが求められています。

今年も広い層の人々に参加を呼びかけ、清掃登山のなかで山の自然と地球環境を守っていく意義を話し合い、交流を深める楽しいクリーンハイクにしていきましょう。

2008 年 6 月 1 日
日本勤労者山岳連盟